

2014年3月期 第2四半期決算説明会

ウシオ電機株式会社

2013年10月31日

〈免責事項〉本資料で記述されている将来の当社業績に関する見通しは、現時点で入手可能な情報を基に当社が判断した予想です。従いまして、様々な要因の変化により、実際の業績は記述されている将来見通しとは大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。

*本資料の記載は、切捨てによる億円単位で表記しております。

USHIO

Lighting—Edge Technologies



Thank you
50th Anniversary

- I. **第2四半期業績概況**
- II. 通期業績見通し
- III. 参考資料

今回の決算発表のポイント

**第2四半期累計期間の業績は、連結売上高が前年同期比6.2%増収の757億円
連結営業利益は同52.3%増益の58億円となり増収増益決算。**

➤ 背景となる分野別市況

エレクトロニクス分野について：

FPD、半導体、電子部品関連メーカーの稼働は緩やかな回復傾向。設備投資は日本国内の中小型液晶パネルに続き中国での投資が年度内に本格化の兆し。電子部品市場の設備投資のうちPC関連は依然低水準。

映像画像分野について：

デジタルシネマプロジェクタ（DCP）は先進国での普及率が高まり、販売の中心が新興国へシフト。シネマ以外の一般映像用装置の市場は引き続き拡大中。

➤ セグメント別業況のポイント

装置事業：

映像装置は、為替影響に加えDCPの売上減少を一般映像が補い、YoY、QoQともに増収。光学装置は、PC需要の低迷などから電子部品関連で一部設備投資が低調に推移しYoYで減収も、2Qは、光配向装置などFPD市場向け装置販売が拡大し、QoQでは大幅増収。

光源事業：

放電ランプはYoY、QoQともに増収。中でもシネマプロジェクタ用クセノンランプの販売は過去最高を更新。露光用UVランプはユーザの設備稼働率が緩やかな回復基調にあり堅調。ハロゲンランプは、OA関連を中心に底堅く推移。

研究開発費はEUV事業を日本へ集約したこともありYoYで減少。なお、通期の連結業績予想については変更なし。下期の為替レート（ドル/円）を90円から95円に（ユーロ/円）は120円を125円にそれぞれ変更。

業績サマリー

(億円)	FY12	FY13	YoY		FY13	FY13	対計画	
	1H	1H	増減	%	1H計画	1H実績	増減	%
売上高	713	757	+44	+6.2	750	757	+7	+1.0
営業利益	38	58	+20	+52.3	50	58	+8	+16.9
営業利益率 (%)	5.4	7.7	+2.3P	-	6.7	7.7	+1.1P	-
経常利益	32	77	+45	+142.3	60	77	+17	+29.4
当期利益	13	51	+38	+295.9	40	51	+11	+29.0
EPS (円)	9.94	39.34			30.5	39.34		
為替レート (円)								
USD	79	99			90	99		
EUR	100	130			120	130		

為替による通期の 影響額 (億円)	売上高	営業利益	経常利益
USD	11	2	2

業績サマリー 《四半期比較》

(億円)	1Q	2Q	QoQ	
			増減	%
売上高	354	402	+48	13.6
営業利益	22	35	+12	56.0
営業利益率 (%)	6.4	8.8	+2.4P	-
経常利益	34	42	+7	21.8
当期利益	30	21	▲9	▲31.0
EPS (円)	23.28	16.06		
為替レート (円)	USD	99	98	
	EUR	130	131	

セグメント別 売上高、営業利益、営業利益率

(億円)		FY12	FY13	YoY		FY12	FY13	HoH	
		1H	1H	増減	%	2H	1H	増減	%
装置事業	売上高	432	441	+9	+2.1	426	441	+14	+3.5
	営業利益	4	20	+15	+328.6	6	20	+13	+201.6
	営業利益率 (%)	1.1	4.6	+3.5P	-	1.6	4.6	+3.1P	-
光源事業	売上高	264	303	+39	+14.9	279	303	+24	+8.6
	営業利益	32	36	+4	+13.8	29	36	+7	+24.5
	営業利益率 (%)	12.3	12.1	▲0.1P	-	10.6	12.1	+1.6P	-
その他	売上高	16	12	▲3	▲23.2	15	12	▲2	▲18.4
	営業利益	+0	+0	▲0	▲20.9	+0	+0	▲0	▲14.7
	営業利益率 (%)	3.4	3.5	0.1P	-	3.3	3.5	+0.2P	-

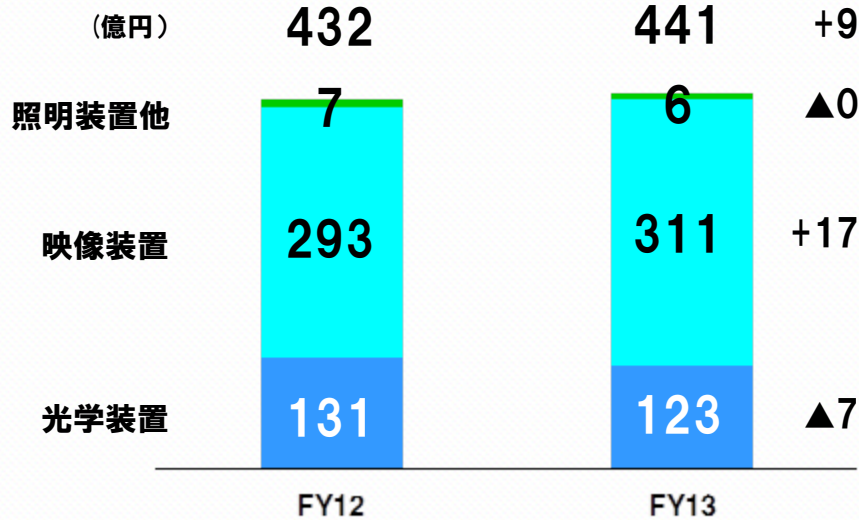
注：売上高は外部顧客への売上高を記載、営業利益率は外部顧客売上高に対する営業利益率

装置事業セグメント概況

《1H前年比較》

売上高

増減



- ◆ **映像装置：**
一般映像は、順調に推移し YoY、QoQともに増収。シネマは単価の低い新興国向け小型機の販売が増加したため出荷台数は想定以上だったもののYoY、QoQいずれも微減収。
- ◆ **光学装置：**
PCパッケージング市場の設備投資が低調に推移した影響によりYoYは減収。2Qは光配向装置などのFPD関連装置の販売拡大により増収。

《1H前年比較》

(億円)

FY12
1H

FY13
1H

YoY

《2Q直前期比較》

(億円)

1Q

2Q

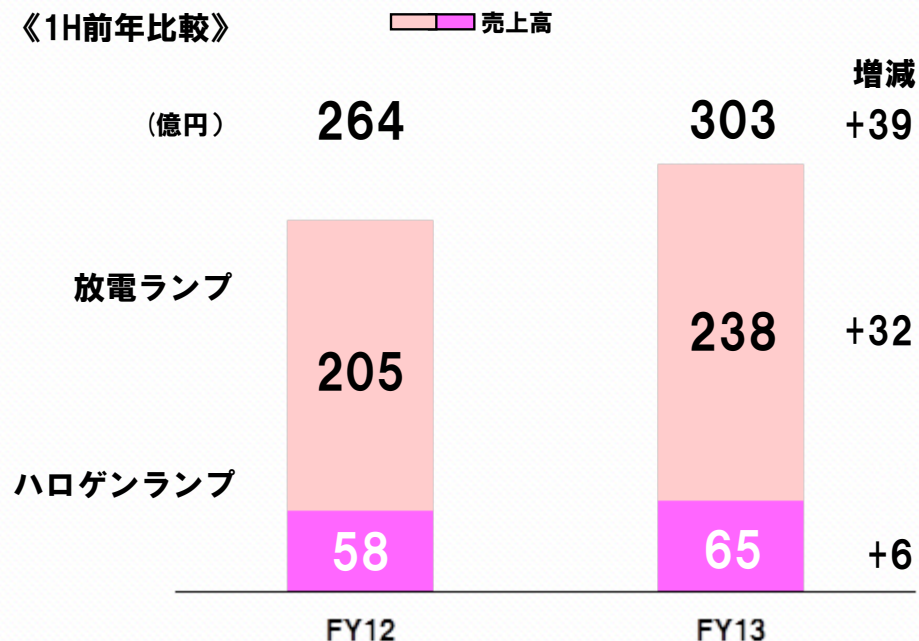
QoQ

売上高	セグメント	FY12 1H	FY13 1H	YoY	売上高	セグメント	1Q	2Q	QoQ
	映像装置	293	311	+17	売上高	映像装置	148	162	+13
	光学装置	131	123	▲7		光学装置	50	73	+23
	照明装置他	7	6	▲0		照明装置他	2	4	+2
合計		432	441	+9	合計		200	240	+39

注：売上高は、外部顧客への売上高を記載

光源事業セグメント概況

《1H前年比較》



◆ **放電ランプ:**

YoY、QoQ共に増収。シネマ用クセノンランプは、過去最高売上を更新。露光用UVランプは、ユーザの稼働率の改善に伴い堅調。

◆ **ハロゲンランプ:**

OA関連では、セットメーカーでの在庫調整が終了したことなどからYoY、QoQ共に増収。

《1H前年比較》

		FY12	FY13	YoY
(億円)		1H	1H	
売上高	放電ランプ	205	238	+32
	ハロゲンランプ	58	65	+6
合計		264	303	+39

《2Q直前期比較》

		1Q	2Q	QoQ
(億円)				
売上高	放電ランプ	117	120	+3
	ハロゲンランプ	31	33	+2
合計		148	154	+5

注：売上高は、外部顧客への売上高を記載

- I. 第2四半期業績概況
- II. **通期業績見通し**
- III. 参考資料

通期業績の見通し

(億円)	通期計画	1H	進捗率 (%)	2H
売上高	1,600	757	47.3	842
営業利益	125	58	46.8	66
営業利益率 (%)	7.8	7.7	-	7.9
経常利益	145	77	53.5	67
当期利益	100	51	51.6	48
EPS (円)	76.26	39.34	-	-
ROE (%)	5.6	2.89	-	-
配当 (円)	22	22	-	-
配当性向 (%)	28.8	55.9	-	-
USD	97	99	-	95
EUR	128	130	-	125

*通期の連結業績予想については変更なし。

サブセグメント別 中期ビジョン初年度予想値比較（売上高）

（億円）		中期ビジョン 初年度 予想値	1H	進捗率 （%）	下期の定性的見通し
装置事業	映像装置	589	311	52.8	DCPの出荷は上期微減程度にとどまる見込み。一般映像は堅調。
	光学装置	370	123	33.4	光配向装置およびUXシリーズの販売台数が4Qに拡大の見込み。
	照明装置他	17	6	38.4	微増を見込む。
小計		976	441	45.2	
光源事業	放電ランプ	441	238	54.0	シネマ用クセノンランプは引き続き好調の見通し。UVランプは中国でのTV用液晶パネルの過剰在庫により下振れの懸念あり。
	ハロゲンランプ	136	65	47.9	堅調に推移し、上期並み。
	小計	577	303	52.6	
その他	産業機械・その他	47	12	27.5	FA装置の販売が増加の見込み
合計		1,600	757	47.3	

下期の見通し

▶装置事業

映像装置分野：

DCPの販売は新興国向け小型機「Solaria」シリーズの出荷が順調に推移。単価下落が進むもの、下期も上期同様予想を上回るペースで出荷が継続し、通期出荷台数は前年度並みの可能性あり。安定的な収益とDCPのシェアを確保し、クセノンランプの販売拡大につなげていく。一方、一般映像の市場は着実に拡大しており、引き続き成長の見通し。

光学装置分野：

下期は光配向など液晶パネル用光学装置及びUXシリーズなど露光装置の出荷を確実に実行するとともに、来期以降の販売につながる受注活動を一層積極的に推進。

▶光源事業

放電ランプ：

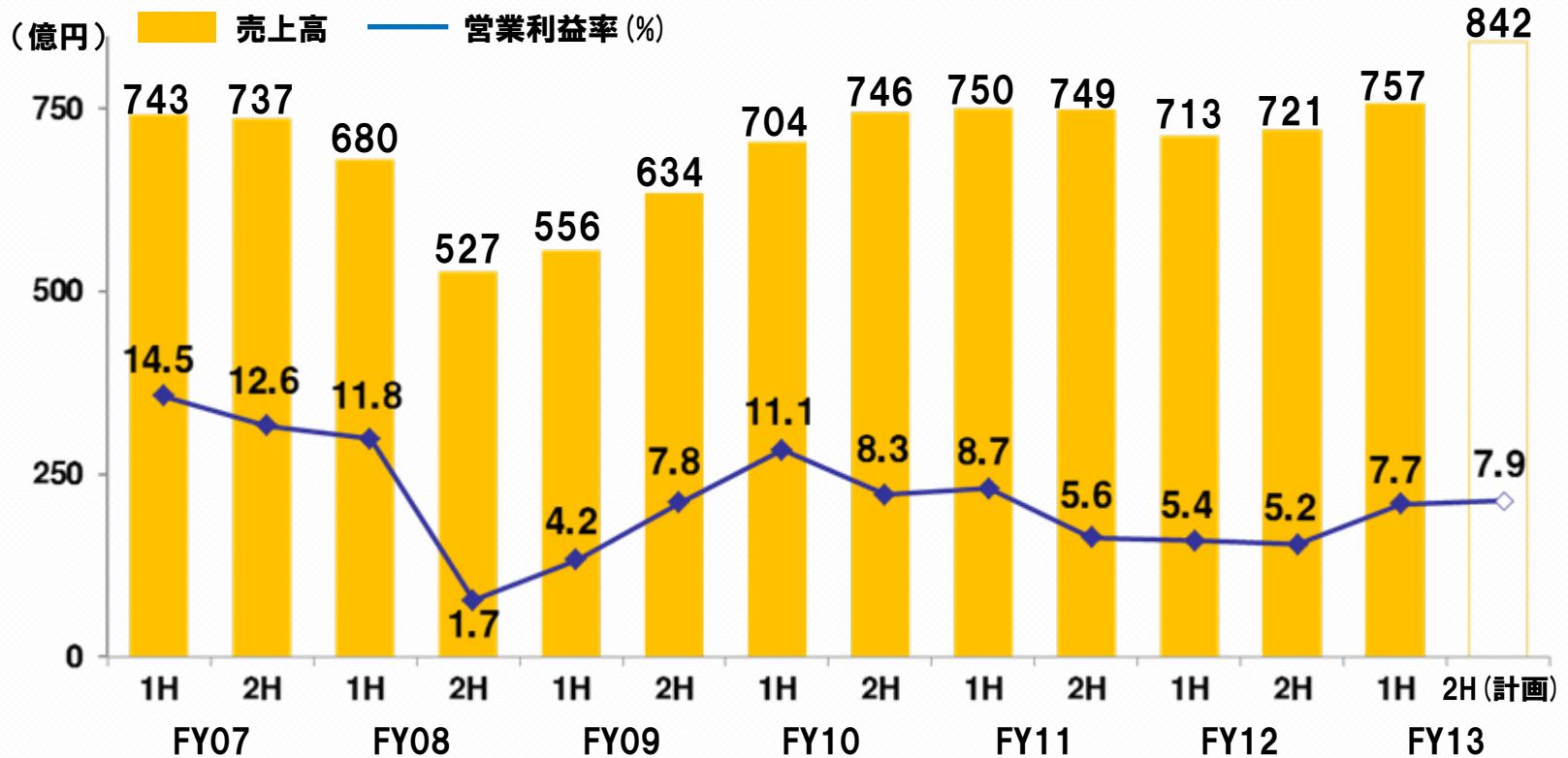
露光用UVランプは堅調なリプレイス需要が見込める一方、中国でのTV用液晶パネルの過剰在庫による稼働ダウンの懸念もあり、既存ユーザでのシェアアップを確実に実行。シネマ用クセノンランプは高信頼性を背景にシェアを維持拡大の計画。データプロジェクタ用ランプはシェアアップとローエンドとハイエンドの両方で収益性向上を目指す。

ハロゲンランプ：

OA用ハロゲンランプは、高シェアを背景に、堅調に推移の見込み。

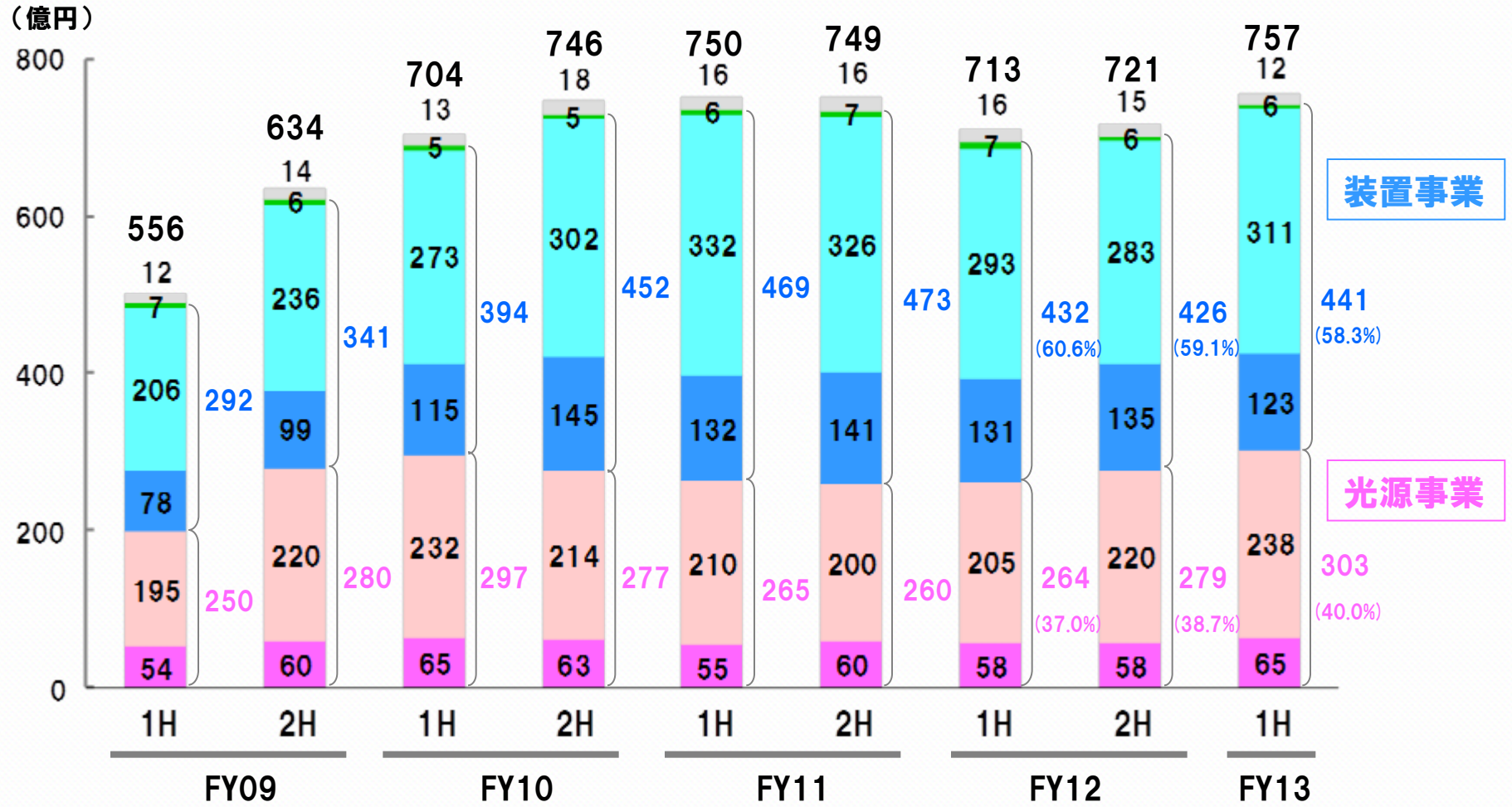
- I. 第2四半期業績概況
- II. 通期業績見通し
- III. **参考資料**

半期業績推移



	FY07		FY08		FY09		FY10		FY11		FY12		FY13	
	1H	2H	1H	2H	1H	2H	1H	2H	1H	2H	1H	2H	1H	2H (計画)
売上高	743	737	680	527	556	634	704	746	750	749	713	721	757	842
営業利益	107	92	80	9	23	49	78	61	65	41	38	37	58	66
営業利益率 (%)	14.5	12.6	11.8	1.7	4.2	7.8	11.1	8.3	8.7	5.6	5.4	5.2	7.7	7.9

サブセグメント別売上高 《半期比較》



装置事業

- 映像装置
- 照明装置他
- 光学装置

光源事業

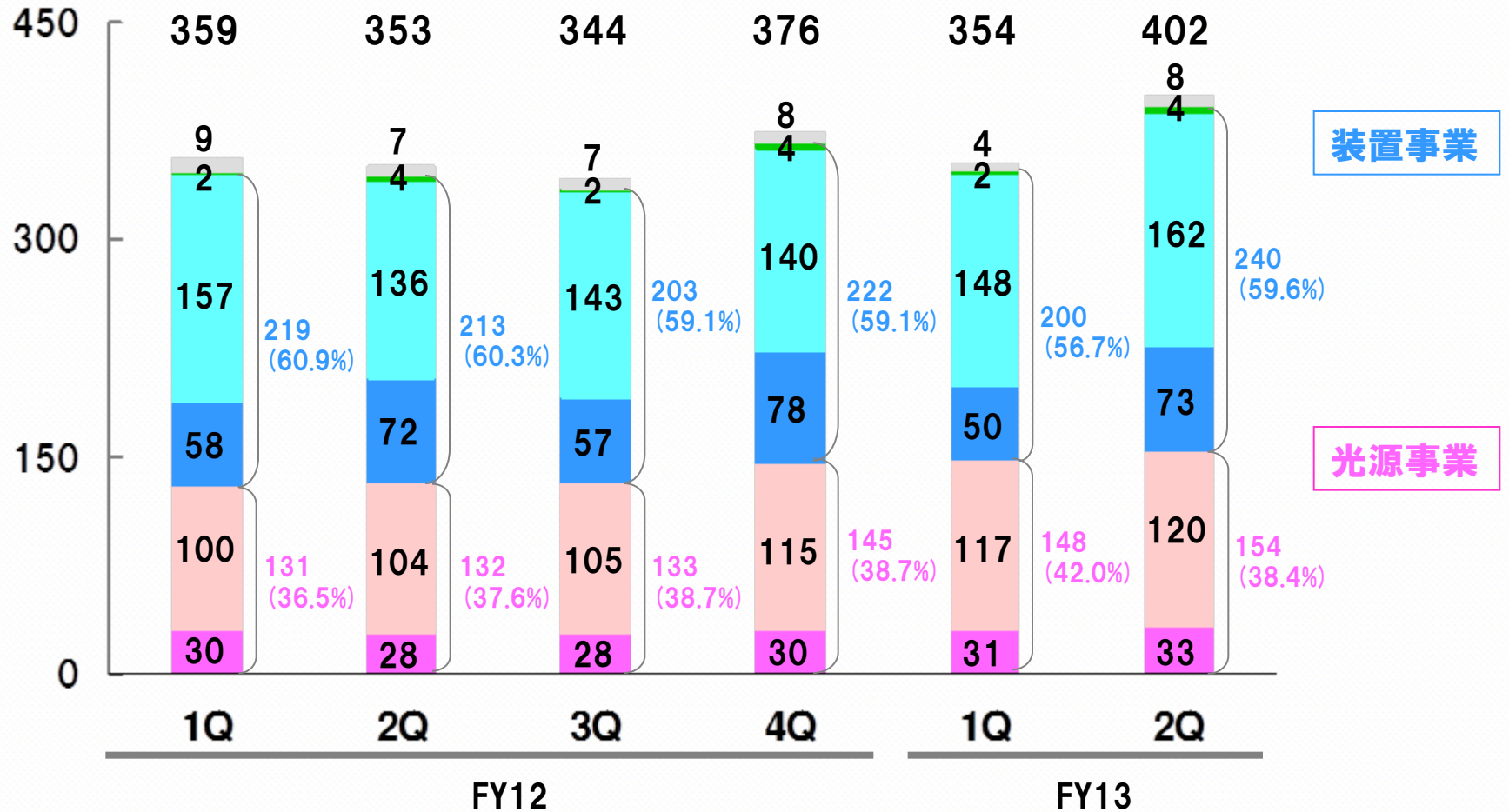
- 放電ランプ
- ハロゲンランプ

その他

- 産業機械・その他

サブセグメント別売上高 《四半期比較》

(億円)



装置事業

- 映像装置
- 光学装置
- 照明装置他

光源事業

- 放電ランプ
- ハロゲンランプ

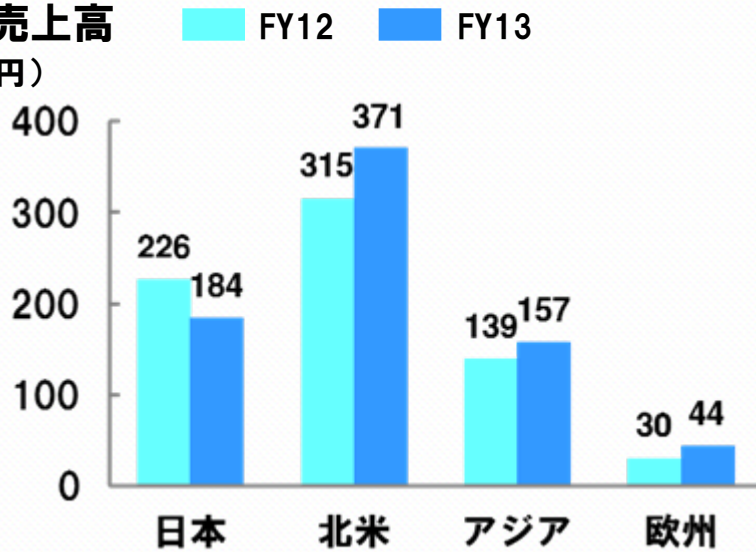
その他

- 産業機械・その他

所在地別損益 (1H)

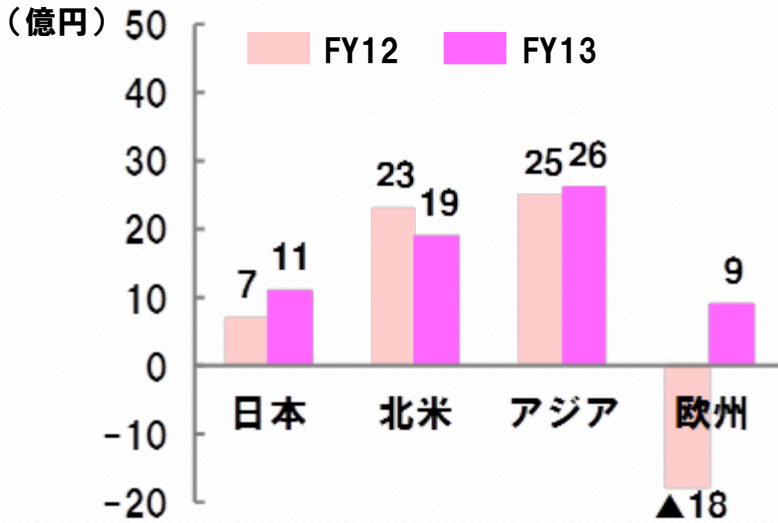
海外売上高比率 (1H)

◆売上高 (億円)

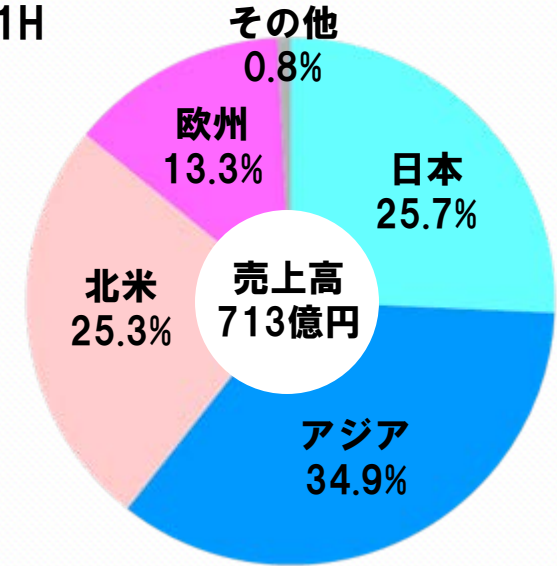


注：所在地別売上高は、外部顧客への売上高を記載

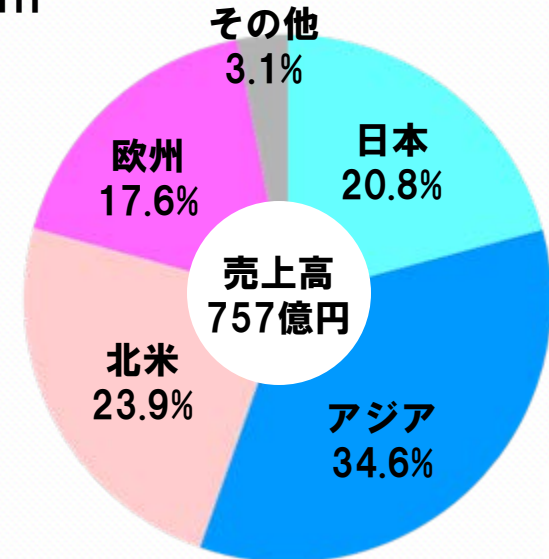
◆営業利益



◆FY12 1H



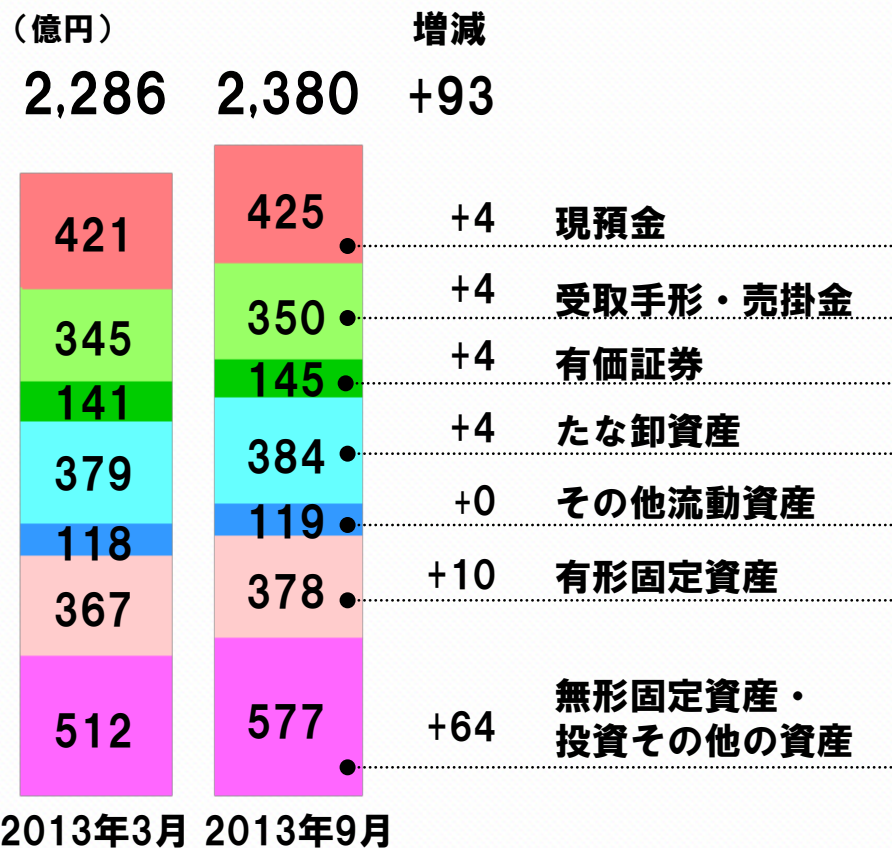
◆FY13 1H



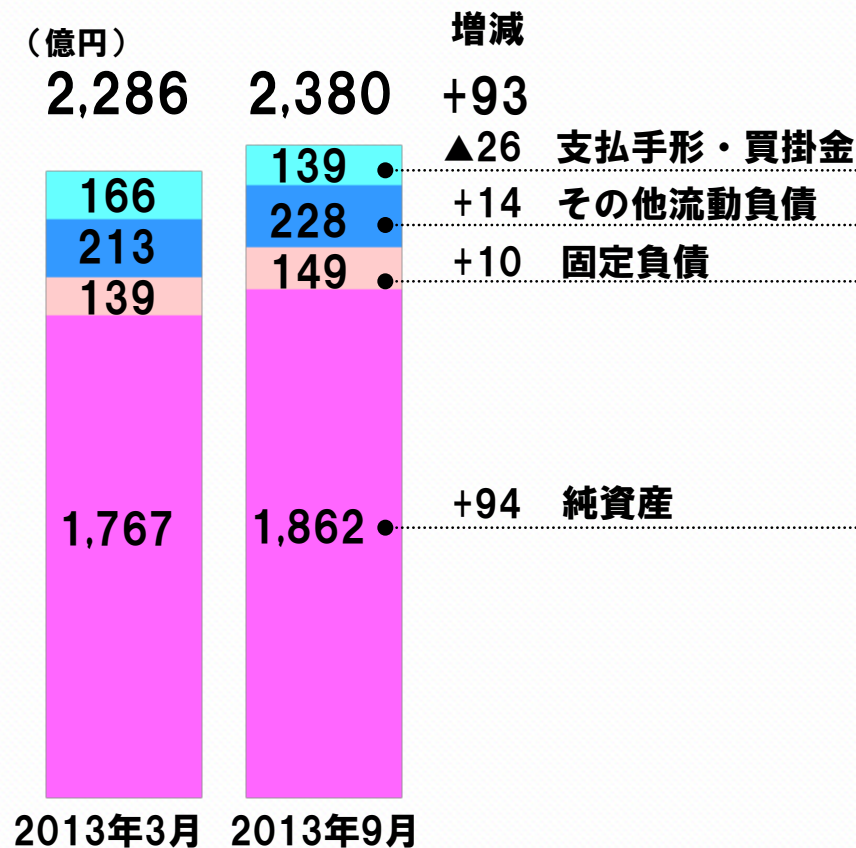
営業外収支 (1H)

(億円)	FY12	FY13	YoY
営業外収益	8	21	+12
受取配当金	4	5	+0
為替差益	-	5	+5
その他	3	10	+6
営業外費用	14	2	▲12
為替差損	8	-	▲8
売買目的有価証券運用損	3	-	▲3
その他	3	2	▲1
営業外収支	▲6	19	+25

◆資産



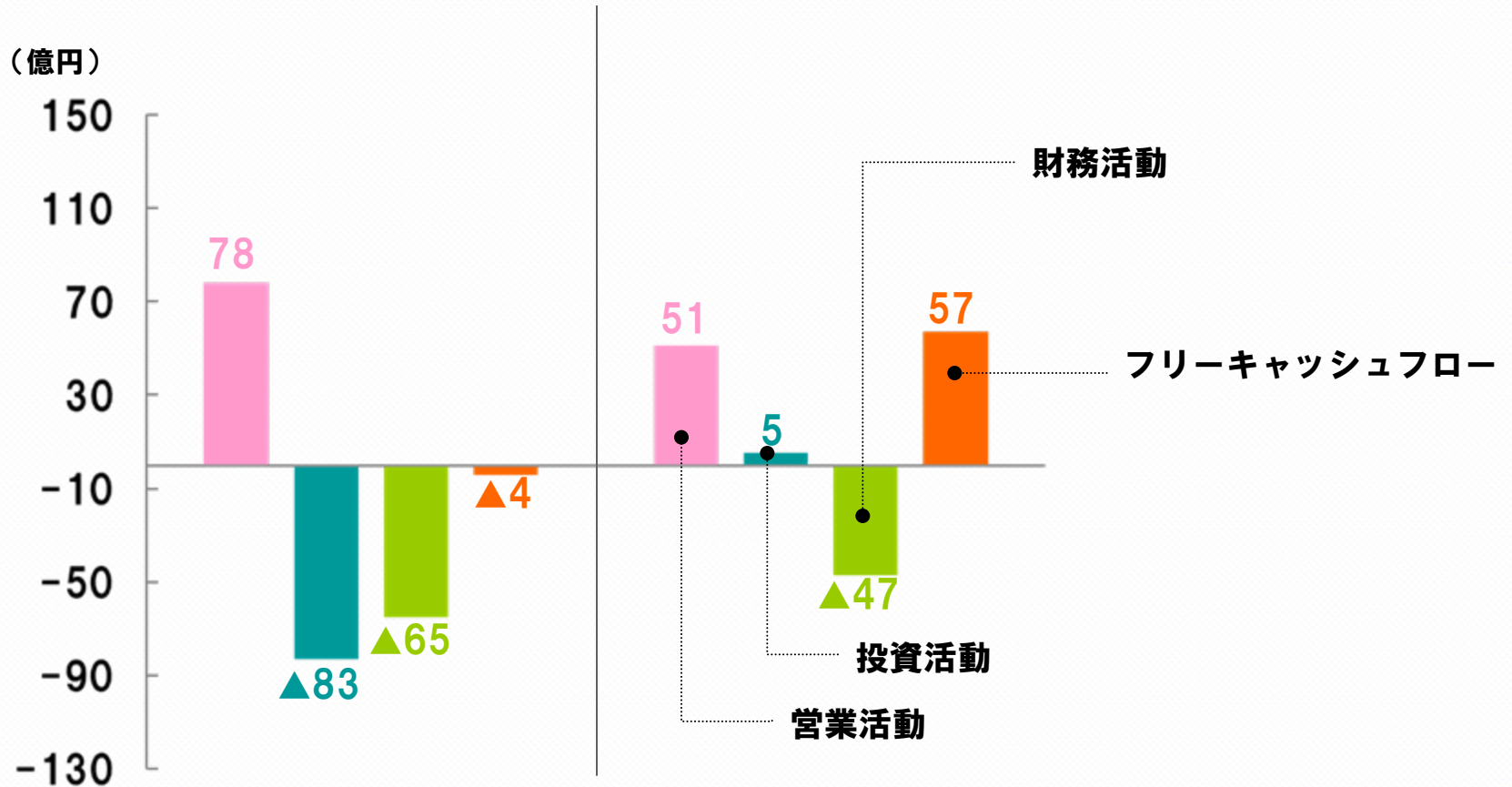
◆負債・純資産



●回転月数 (ヶ月)	2013/3	2013/9
売上債権	3.0	2.8
たな卸資産	3.3	3.0

●自己資本比率	2013/3	2013/9
	75.9%	76.9%

キャッシュフロー (1H)

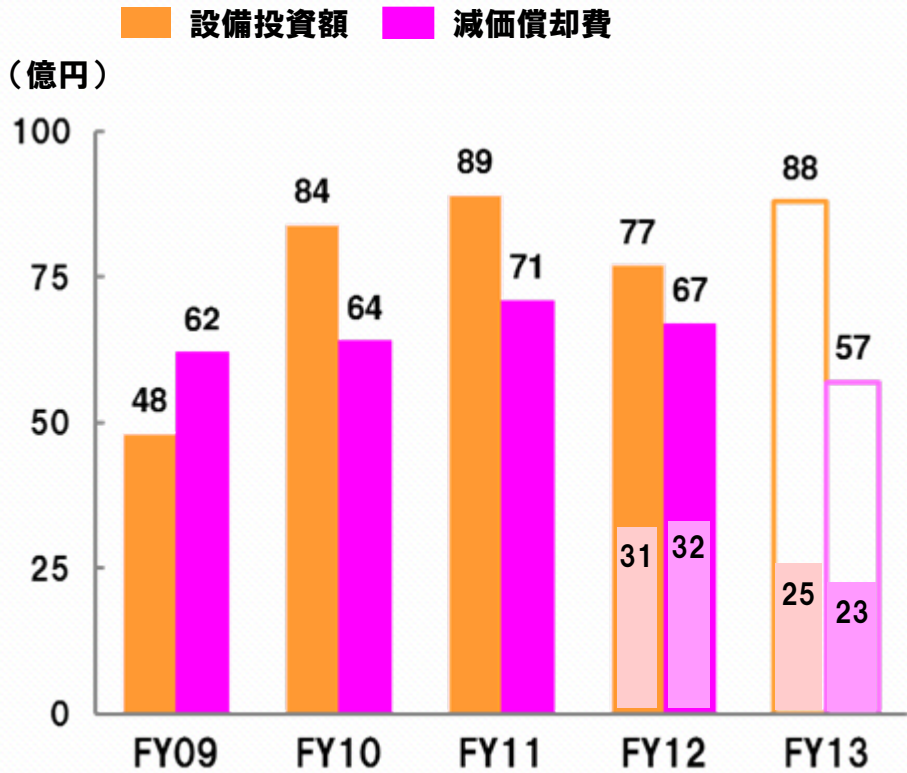


FY12	
期首現金残高	415
期末現金残高	334

FY13	
期首現金残高	432
期末現金残高	453

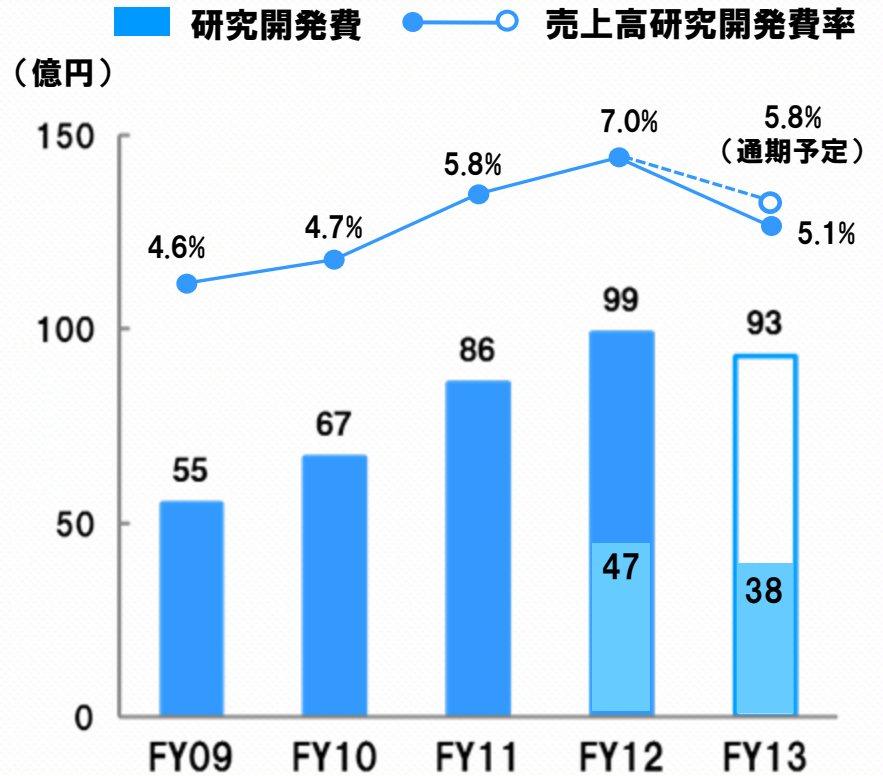
設備投資額・減価償却費・研究開発費

◆設備投資額・減価償却費



	1Q	2Q
設備投資額	14	11
減価償却費	11	12

◆研究開発費



	1Q	2Q
研究開発費	17	20

T O P I C S

ポイントリーダー販売開始 (2013年4月)



血清フェリチンの定量分析が 可能な小型血液分析装置

血中の鉄分量を検査するのに有効な血清フェリチンの定量分析が、診療所などの臨床現場でも迅速かつ正確に行なえるため、C型肝炎などの診断や経過観察に有効。

UDIシリーズを開発 (2013年5月)



プリント基板向け ダイレクトイメージング装置

FC-CSPのみならず、FC-BGAなどのパッケージング基板製造に最適な直描式露光装置。

アドテックエンジニアリングが 富士フィルムと協議開始 (2013年9月30日)



FUJIFILM

・富士フィルムからのプリント配線板向け直描式露光装置の設計・販売・保守に関する事業の譲り受け

・富士フィルムとの業務提携の発展的解消

USHIO

本資料に関するお問い合わせ先
ウシオ電機（株）広報IR室 （03）3242-1836
contact@ushio.co.jp
<http://www.ushio.co.jp/jp/>